

自分をどう変えるか

会社員 (54歳)

私は子を持つ親として取り返しのつかない、恥ずべき犯罪を犯してしまいました。前方不注意とひき逃げという行為により、1人の尊い命を奪うという絶対に許されない交通犯罪を起こしてしまったのです。

私は、事件の当日、趣味の登山に向かうため朝4時に起き、目的の山に向かっていました。この日は11月でしたが、朝から少しもやも出ており、暖かい日でした。また、山登りも30年ぶりに再開したこともあり、燃費の良いハイブリッド車に替えて、10日目のことでした。山に向かいつつ、新しい車でのドライブということもあり、気持ちも浮ついていたのかも知れません。

顔を上げると人の影が左前方にありブレーキを踏みましたが、踏むと同時に衝突させていたと思います。「あっ」と思うと同時にブレーキを踏みましたが、その瞬間に「ドンツ」という音と衝撃が全身に伝わってきました。人を撥ねてしまったと思い、頭の中は真っ白でパニックになり、どうしよう、どうしようという気持ちと、逮捕されると会社を解雇される。子供達の将来はどうなってしまうのかという気持ちがよぎったと思います。私は、その場から逃げてしまいました。どこをどう曲がって、自宅に帰って来たのか覚えていませんが、途中から何ということをしてしまったのか、被害者の方はどうなっただろう、置き去りにして逃げて来てしまった、子供の将来は、妻に話さなければ、警察に行

かなければなど頭の中をぐるぐると何度も後悔の念がよぎりました。

しかし、私は自分に都合の悪いことから逃れることを選んでしまったのです。自分の地位、将来、子供のこと、妻のこと等を考え、自分に都合の良いことを優先させてしまったのです。この考えは、自分自身さえ良ければという弱い心であり、許されるべきものではありません。事故後、現場で被害者の方が亡くなられたことを知り、胸が張り裂けそうになり大変申し訳なく取り返しのつかないことをしてしまったと思い、自首することを決心しました。

自首までの日々は私にとって地獄でした。罪悪感に苛まれ、被害者の方がどうなったかが気になって心配で、正直なところ一睡も出来なかったのも事実です。何度早く警察に行かなければと思っただことか。妻にも話さなければと何度思ったことか。しかし、私は被害者の死を知るま

でその行動に出ることができない意気地のない弱い人間でした。

その後、保釈により3か月程出させて頂き、4〜5回謝罪と墓前の焼香に伺わせて頂きました。今でも最初に伺った時に言われた事「私の子供達は、ひき逃げするような父親は父親とは思わないと言っていますよ。」「自首するまでの2日間どうしてこの頭から離れません。私の卑怯な行動は、お子様の目にも悔しく憎く写ったことと思います。私の不注意な運転により事故を起こし、人としてあるまじき行為により、現場に置き去りにされた被害者の方の悔しき、憤りは計りしれないものがあると思います。自己中心的な心を恥じ入るばかりです。今後、自身の責任を果たすとともに、生涯を懸けて、真の償いをしていかなければならないと考えます。

何をしても償いとすのか、市原刑務所に入所以来考

えてきました。改善指導、被害者ご遺族の方の生の声を聞かせて頂き、「自分自身を変えらるること」が償いだと思付きました。このことが償いの出発点でもあると思います。受刑の現実は今までの自分の考え方、行動の結果です。自分の犯した罪を反省し、ご遺族の多岐に渡るつらい悲しみを肝に銘じ、墓前に立てる人間となるよう受刑生活において、自分自身を変えらるることでご遺族の苦しみ、辛さを少しでも和らげるものと信じています。

「贖いの日々」

第49集(平成26年版)より抜粋

転載・二次使用を禁止します。